伊勢參宮案内地圖

大阪

名古屋

東海道本線

京都

関西本線

亀山

津

草津線

伊勢

鳥羽

参宮線

東海道本線

関西本線

東京

内宮

外宮

たまや

月夜見宮

月讀宮

伊勢離宮

古市

二見

日和山

鳥羽新城

鳥羽

内宮附近

外宮附近

二見附近

鳥羽町圖

日之山公園

合同電鉄貸金表

両宮年中行事

山田駅ヨリ里程

内宮ヨリ里程

昭和十二年八月五日印刷
昭和十二年八月十日發行

伊勢參宮案内

總說

伊勢の兩大神宮　伊勢の兩大廟は內宮外宮の兩大宮に分れ、內宮は申すも畏こけれど、神路山に在して、天照大神を、外宮は高倉山の麓に鎭座ありて、豐受大神宮を齊き祀れるが、御饌座の次第を承るに內宮は八咫の御鏡を御神体として創め倭の笠縫の邑に在せしを崇神天皇の三十九年丹波國吉佐宮に、同五十一年紀伊奈久佐濱の宮に、同五十四年紀伊有田名方濱宮に、同五十八年大和彌和御神宮に、同六十年大和宇多秋志野宮に、同六十四年伊賀名張市宮に、同六十六年伊賀穴穂宮に、垂仁天皇の二年伊賀都美惠宮に、同四年近江甲可比雲宮に、同八年近江阪田宮に、同十年美濃伊久良河宮に、同十四年尾張中島宮に、同伊勢桑名野代宮に、同十七年伊勢飯野高宮に、同十八年伊勢阿佐加藤方樋宮に、同二十二年伊勢佐佐波多宮に、同二十五年伊勢度會濱原和比野等各所に御遷座あり越えて翌二十六年十月十七日を以て今の聖地に鎭座せられ、また外宮は創め丹後國與謝郡眞奈賀原に鎭座ありしを雄略天皇の二十一年、天皇神夢によつて御靈感あり即ち大佐佐命勅命により、山城、近江、大和、伊賀等に奉遷し、同二十二年九月今の大宮地に鎭め來りしなりと申す。

參詣の順路と交通機關　內宮は宇治に外宮は山田に鎭座し兩宮の距離五十丁、參宮線山田驛より外宮へ三百米に過ぎざるを以て先づ外宮に參拜して內宮に向ふが順路なり、道程は外宮內宮間往復して途次の名蹟を探るも可、また電車の便あるを以て外宮より直ちに電車で植部停留場右方高地の伊勢離宮地を拜しつゝ內宮に參拜し、歸路を朝熊山或は二方方面に向ふも可ならん、其他海路ならば神社港か鳥羽港に上陸するもよし、神社より山田まで六粁、鳥羽ならば鳥羽驛より參宮線により二見驛に下車して先づ內宮より向ふべしと雖もそは順路と云ふべからず。

參宮と名蹟見物

【汽車】　による參宮ならば何れよりも關西本線亀山驛にて參宮線に乘換へて、（大阪、京都、名古屋より直行列車あり）宮に、津、松阪の都市及び其他幾多の小驛を過ぎ宮川驛に至らば驛に近く宮川を隔て、其對岸は神郷の地たる宇治山田市と相對す。

【電車】　によれば大阪上本町より大軌電車と參急行電車との直通運轉により名古屋松阪駅を經て字治山田驛に至る、又大坂方面よりは桑名、松阪を過ぎて大神宮前驛に至る養老電鐵及び參宮急行電鐵伊勢線によれば桑名、松阪を過ぎて大神宮前驛に至る。

【宮川】　大和の深く原に其源を發して伊勢灘に注ぎる河流にして舊時は勅使大廟に參向の際清祓ひを行はれ又一般の參宮者は此の流れにて水垢離を取るを例とせり處なり、汽車はこれに架けたる五百二十餘米の長鐵橋を渡り山田上口驛を經て參宮順路驛たる山田驛に着すべし。

【月夜見宮】　に參詣せんとならば山田驛にて車して驛前より道を右にとれば可なり、同宮は外宮別宮の一にして、月夜見命、荒魂命の二座を祀る、同社に參詣して直路進めば裏參宮道なり、驛前に通じたる參宮電車線に沿ふて進めば表參道にして、外宮神苑まで約三百米。

【參宮電車】　は神苑前より左折し內宮及び二見方面に至る。外宮參拜後次の名蹟を探るに無く直ちに同方面に向はんには神苑前にて電車の便によるが可ならん。また山田驛前より左方に向へば、

【結城宗廣公の墳墓】　山田驛の南方吹上町の光明寺舊地內に有り、公は延元三年の秋、南朝の廢帝を奉ずして其復興を企り義良王を奉じ乘船し陸奥に到りとする、海上颶風の爲めに吹戻され途に事を遂げずして其十一月此地に嘆死したる人、砂ほ近年有志により建立さる、先づ大廟に參拜し伊勢灘其墓碑に詣で英靈を慰むべきか

【外宮神苑】　に入り、明治二十七八年の役後大山元帥より奉獻せし征清記念魂みな右手に見て歓きなされる青砂の上を歩めば前方に一橋あり、

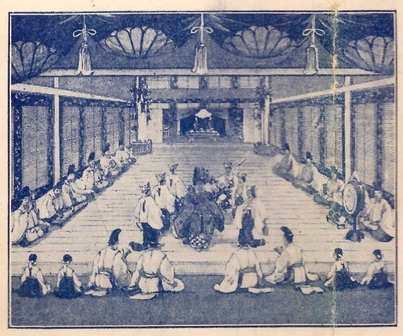
【一の鳥居橋】　と云ふ、橋の袂に衛士の警衛ずる表見張所あり、橋を渡りて一の鳥居に至る途次右方に昔時平清盛が參向の時冠れ其枝にかけしと云ふ。

【清盛楠】　あり、一の鳥居より二の鳥居に至る途次左方の御手洗にて口を漱ぎそれより右方に荒垣を引き繞らしたる神物のあるは行幸啓の御時の、

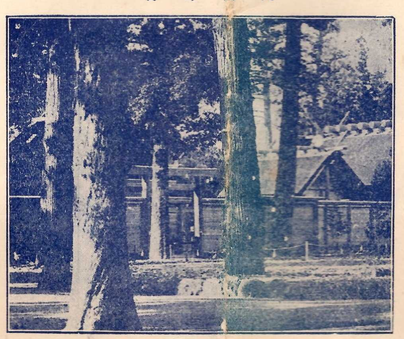
【行在所】　と承はるに足りしとも畏し、二の鳥居を過ぐれば右方に、

【神樂殿】　あり、御神樂を奏するには此處に願ひ入るべく神樂殿に並んで、

【大々神樂奏樂】



【大廟外宮】



【大麻授與所】　あり、之れ云ふ迄も無く大麻及び本廟を頒與さる處、更らに夫れに隣りて建てるは攝社、末社に御饌を供ふる。

【九丈殿】　なりと申す、九丈殿の次ぎに清き通路を隔て、神々しき外宮の御宮城を拜す、南面せる、

【外宮】　の御宮城を拜せば板垣を左右に控へたる三の鳥居あり、一に板垣鳥居とも申し御正面建てられた鳥居を通じて白の几帳を垂れたる、

【外玉垣御門】　を拜す、普通人の參拜は此の御門前にて、行ふべく申すも畏こけれども御門前の御榜樣を承はるに外玉垣御門の次ぎに第四の鳥居、內玉垣御門、一番垣御門、瑞垣御門を隔てゝ、

【御正殿】　の鎭まりまして其御構造は我國最古の御規模に則らせ給ひ掘立の御柱に雲形の御屋根を以てし長さ十米、闊さ五米、外面よりその御屋根の千木鰹木のみ遙かに拜する為得べし、因みに御宮殿の翠地は東西二箇所にありて、古來二十一年目に東或は西に御改築と定めさせられ現今の宮殿は西の聖地にありて去る昭和四年に遷宮せられたり、參拜後御池の畔に出づれば、

【神鶏】　の悠々餌を漁る樣の長閑にも床しく、池の東邊に沿ふて南に進れば通路十字を爲して左に風宮、右に土宮、直路に多賀宮鎭座あり、また外宮域の東邊より北方に通じたる路に向へば前に逸べし九丈殿の北方には、

【五丈殿】　其また北方に內御厩あり、更らに北して御宮城の背後に至れば朝夕の御饌を調へる所なり。

【忌火屋殿】　御酒殿、御贄木屋等右方に建てられ櫛て北の宮居を過ぎ裏見張所前を經て北すれば御域外に出づ、前に逸べたる裏參宮道によれば此の處に來るなり。

【裏見張所】　前より右に神苑を辿り右前に逸べたる征清記念魂の附近に至れば其東北方に、大正天皇、

【御手植の松】　あり、陛下御齢十四歳にて、尚未だ皇太子殿下に在せし御頃御參拜遊ばされし御記念の松樹にて常緑の翠ぶ樹やや榮えに榮えつゝあるも目出たし、外宮御神域の參拜々觀は以上を以て粗ぼ終えたる譯なれど之れより電車により內宮に向はんには御神域外に出づべくまた途次の名蹟を探りて徒行ばんには一の鳥居橋詰より東に辿る、

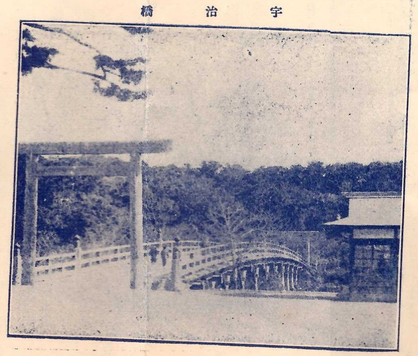
【勾玉池】　は一の鳥居橋の東邊にあり其形狀勾玉に似たるを以て斯く名づく、池邊に櫻藏あり池中に白蓮あり、東南に繞りて奈良の風光一層佳なり。

【高倉山】　は、勾玉池の東邊より登るべく阪路一粁餘、山上の眺望甚だ佳なり、

【豐宮崎文庫】　池の東邊、高倉山登山路の東方にあり、慶安元年時の外宮の神官尊子藤條の爲め建設したる圖書館にして古書珍本を藏すること夥し、同文庫より北に出づれば即ち內宮道にして風本町、尾上町、倭町、古市町、中の町、櫻木町

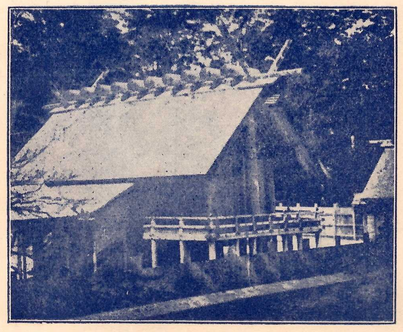
【五丈殿】

【宇治橋】



【內宮御手洗】

【內宮廚】



（二）

【宮川】　の際清祓ひを行はれ又一般の參宮者は此の流れにて水垢離を取るを例とせり處なり、汽車はこれに架けたる五百二十餘米の長鐵橋を渡り山田上口驛を經て參宮順路驛たる山田驛に着すべし。

【月夜見宮】　に參詣せんとならば山田驛にて車して驛前より道を右にとれば可なり、同宮は外宮別宮の一にして、月夜見命、荒魂命の二座を祀る、同社に參詣して直路進めば裏參宮道なり、驛前に通じたる參宮電車線に沿ふて進めば表參道にして、外宮神苑まで約三百米。

【參宮電車】　は神苑前より左折し內宮及び二見方面に至る。外宮參拜後次の名蹟を探るに無く直ちに同方面に向はんには神苑前にて電車の便によるが可ならん。また山田驛前より左方に向へば、

【結城宗廣公の墳墓】　山田驛の南方吹上町の光明寺舊地內に有り、公は延元三年の秋、南朝の廢帝を奉ずして其復興を企り義良王を奉じ乘船し陸奥に到りとする、海上颶風の爲めに吹戻され途に事を遂げずして其十一月此地に嘆死したる人、砂ほ近年有志により建立さる、先づ大廟に參拜し伊勢灘其墓碑に詣で英靈を慰むべきか

【外宮神苑】　に入り、明治二十七八年の役後大山元帥より奉獻せし征清記念魂みな右手に見て歓きなされる青砂の上を歩めば前方に一橋あり、

【一の鳥居橋】　と云ふ、橋の袂に衛士の警衛ずる表見張所あり、橋を渡りて一の鳥居に至る途次右方に昔時平清盛が參向の時冠れ其枝にかけしと云ふ。

【清盛楠】　あり、一の鳥居より二の鳥居に至る途次左方の御手洗にて口を漱ぎそれより右方に荒垣を引き繞らしたる神物のあるは行幸啓の御時の、

【行在所】　と承はるに足りしとも畏し、二の鳥居を過ぐれば右方に、

【神樂殿】　あり、御神樂を奏するには此處に願ひ入るべく神樂殿に並んで、

【大々神樂奏樂】

【大廟外宮】

（三）

【大麻授與所】　あり、之れ云ふ迄も無く大麻及び本廟を頒與さる處、更らに夫れに隣りて建てるは攝社、末社に御饌を供ふる。

【九丈殿】　なりと申す、九丈殿の次ぎに清き通路を隔て、神々しき外宮の御宮城を拜す、南面せる、

【外宮】　の御宮城を拜せば板垣を左右に控へたる三の鳥居あり、一に板垣鳥居とも申し御正面建てられた鳥居を通じて白の几帳を垂れたる、

【外玉垣御門】　を拜す、普通人の參拜は此の御門前にて、行ふべく申すも畏こけれども御門前の御榜樣を承はるに外玉垣御門の次ぎに第四の鳥居、內玉垣御門、一番垣御門、瑞垣御門を隔てゝ、

【御正殿】　の鎭まりまして其御構造は我國最古の御規模に則らせ給ひ掘立の御柱に雲形の御屋根を以てし長さ十米、闊さ五米、外面よりその御屋根の千木鰹木のみ遙かに拜する為得べし、因みに御宮殿の翠地は東西二箇所にありて、古來二十一年目に東或は西に御改築と定めさせられ現今の宮殿は西の聖地にありて去る昭和四年に遷宮せられたり、參拜後御池の畔に出づれば、

【神鶏】　の悠々餌を漁る樣の長閑にも床しく、池の東邊に沿ふて南に進れば通路十字を爲して左に風宮、右に土宮、直路に多賀宮鎭座あり、また外宮域の東邊より北方に通じたる路に向へば前に逸べ九丈殿の北方には、

【五丈殿】　其また北方に內御厩あり、更らに北して御宮城の背後に至れば朝夕の御饌を調へる所なり。

【忌火屋殿】　御酒殿、御贄木屋等右方に建てられ櫛て北の宮居を過ぎ裏見張所前を經て北すれば御域外に出づ、前に逸べたる裏參宮道によれば此の處に來るなり。

【裏見張所】　前より右に神苑を辿り右前に逸べたる征清記念魂の附近に至れば其東北方に、大正天皇、

【御手植の松】　あり、陛下御齢十四歳にて、尚未だ皇太子殿下に在せし御頃御參拜遊ばされし御記念の松樹にて常緑の翠ぶ樹やや榮えに榮えつゝあるも目出たし、外宮御神域の參拜々觀は以上を以て粗ぼ終えたる譯なれど之れより電車により內宮に向はんには御神域外に出づべくまた途次の名蹟を探りて徒行ばんには一の鳥居橋詰より東に辿る、

【勾玉池】　は一の鳥居橋の東邊にあり其形狀勾玉に似たるを以て斯く名づく、池邊に櫻藏あり池中に白蓮あり、東南に繞りて奈良の風光一層佳なり。

【高倉山】　は、勾玉池の東邊より登るべく阪路一粁餘、山上の眺望甚だ佳なり、

【豐宮崎文庫】　池の東邊、高倉山登山路の東方にあり、慶安元年時の外宮の神官尊子藤條の爲め建設したる圖書館にして古書珍本を藏すること夥し、同文庫より北に出づれば即ち內宮道にして風本町、尾上町、倭町、古市町、中の町、櫻木町

【宇治橋】

【內宮御手洗】

【內宮廚】

（七）

【饗古館】　農藥館、撫下御物拜觀所は古市町より左へ三百米なる倉田山に建て、饗古館は我國古來より の時代に應じて武器文物美術工藝各種の產物製品標本圖書統計等を蒐集し、撫下御物拜觀所は二十一年毎に神宮御遷宮代の度ごと調度御寶物の取り代えさせられ御物を藏めし處にして同所は明治天皇行幸遇以上の有資格者に限り拜觀を許さゝる規定なり、再び古市町に戻り尚も進んで神務署、猿田彦神社、神宮祭事會大本部、神宮奉賛會大本部、林崎文庫等の前を過ぐれば軈て水浮き五十鈴川邊に達し、壯重なる橋は長さ九十二米餘、幅七米餘、凡て檜造りなる以てし之れを式年御造替の一として廿一年目毎に架換さる、橋を渡れば既に

【內宮神苑】　にして巨杉老樹の蒼鬱たる神路山は崇高の氣を漂えて神々しい清淨なる神苑には緑の斑なる芝生に種松の點綴せるもすがゝしく、參路に沿ふて右に曲れば明治二十七八年の役後大山大將より奉獻の戰利巨砲、明治三十七年の役後東郷大將より奉獻の戰利大巨彈等あり、尚進めば明治二十四年大正天皇の皇太子殿下に在ませし御時御手づから植えさせられし、

【御手植の松】　を右方に拜して一の鳥居橋を渡り一の鳥居に至れば左方には行在所、右方には祓所あり、祓所の南邊を右に辿れば五十鈴川岸にして參拜者はその流れにて口を漱ぎ手を洗ふべし、元に戻りて參路を尚も辿れば、古杉老樹左右に蟠々として繁え蒼古幽邃の念自ら胸に迫る覺えん、二の鳥居を過ぐれば軈て路は十字を爲し、右方に向へば風宮橋を渡りて風新宮に左方に向へば勾玉池に達するなり。

【大廚授與所】　は十字路の東角にて、神樂殿は夫れに隣り其他五丈殿、由貴御倉等あり、之れより約五十米にして、

【內宮御宮域】　に至るべく、其聖地は外宮と同じく東と西の二箇所に定められ現今の御神殿は西の聖地に建ち、御構造の御規模は之又、外宮と殊す只だお屋根の千木に於て外宮は外に切られも內宮は內に切られ鰹木の數は外宮は九本、內宮は十本、御階の數は外宮は十一級、內宮は十級なり又る、神路山の麓は深く蔚々たる木立に風靜まりて白木造の宮居は一點の塵も許さず、衆庶の參拜所と定められたる外玉垣御門に跪ぎ寶に西行が詠びたる「何事のおはしますかは知られども忝なさに涙こぼるゝ」の感を覺えざるもの無かるべけん。

【如雪園】　は大阪の篤志家蓉谷傳三郎氏の經營に係る無料休憩所なり、眺望絶佳多數貴顯紳士の登園せるあり、久邇宮及び伏見宮のお手植松あり

【五十鈴川上流勝地】　宇治橋の前より川上を上ること約五十米にして紅葉の名所法度ありそれより約一粁の處に、鮎石、海鳳石、西行戻石、鷺ケ淵等大小の奇巖清流中にありて天然の絶勝地なり、其より上流には鏡石、牛石、大滝小滝等勝地甚多し

（八）

又附近山中には尾張百日紅、千人塚、非盤石、驚嶽御等ありて何れも一日の探勝に値すべし、內宮參拜後朝熊山に向ふとならば、神苑の參路を元へ宇治橋を左に見て尚も北方に進めば、路は左右に分岐せるを以て右方面に進れば「朝熊登山電車」參宮電車楠部停留場にて其登山路に出る、左路は二見道なり、尤も「朝熊登山電車」八分間にて山上に達す、頂上には自動車の便あり二見は宇治橋畔より電車の便によるがよく或は朝熊より下山するも可なり、または內宮より約一粁にして歌聖西行の舊蹟たる、

【西行谷】　あり、西行此地に來りて神跡山の櫻は吉野山に勝ればとて宮居すること三年にして東に下ると西行物語に見えたり。

【海抜五五三米】　內宮神苑より山頂まで八粁、登路百米毎に石標を建て途次の所々に茶店ありて登山者の便にす、頂上に近く名物の朝熊山萬金丹を驚げり、軈て絶頂に至れば、

【金剛證寺】　あり、堂宇は宗良親の頃曉臺和尚の開基にかゝり一時廢頽に傾きしを淨和天皇の天長元年、弘法大師之れを再興して眞言宗の一寺をせしが延長年間鎌倉建長寺第五世の東丘禪師更らに中興の祖となりて臨濟宗に改むと、本尊には天平年間聖武天皇の御寄進にかゝる聖德太子が天竺より傳來せしと云ふ慮藏菩薩を安置し霊時は輪奐の美を極めしも關來再度の火災にかゝり今は本堂のみ存せり。

【龍池】　之また朝熊山の頂山にありと雖も毎年陰曆六月一日の外は人の近づく能はざる處と云ひ傳ふ、其他明王院矢之進地藏等名高く、金剛證寺の

【裏の院】　たる呑海庵は最も絶勝の地なり古め常士見窯あり、

【下山路】　るものにして、山路の稍險なりと雖も鑑の朝熊村まで二粁餘にして至るべく朝熊村より、二見まで道程約四粁。

【二見浦】　を二見に向ふには登山路を下ること約二粁にして右方に岐れし道を辿れば田畑及び宇治より遠し山田を發したる參宮線は又此地に二見支線を設けたるを以て電車の二見停留場或は參宮線二見驛に下車して一路東に辿れば旅館土產物店等櫛比せる街衢を過ぎて風光明媚なる海濱に至る、東は海上廿八粁を隔て遙かに三河の伊良湖崎と相對し駿遠灘の諸山、さては富嶽の秀峰を給ひ掘立の御柱に雲形の御屋根を以てし長さ十米、闊さ五米、外面よりその御屋根の千木鰹木のみ遙かに拜する為得べし、因みに御宮殿の翠地は東西二箇所にありて、古來二十一年目に東或は西に御改築と定めさせられ現今の宮殿は西の聖地にありて去る昭和四年に遷宮せられたり、參拜後御池の畔に出づれば、

【神鶏】　の悠々餌を漁る樣の長閑にも床しく、池の東邊に沿ふて南に進れば通路十字を爲して左に風宮、右に土宮、直路に多賀宮鎭座あり、また外宮域の東邊より北方に通じたる路に向へば前に逸べ九丈殿の北方には、

【五丈殿】　其また北方に內御厩あり、更らに北して御宮城の背後に至れば朝夕の御饌を調へる所なり。

【忌火屋殿】　御酒殿、御贄木屋等右方に建てられ櫛て北の宮居を過ぎ裏見張所前を經て北すれば御域外に出づ、前に逸べたる裏參宮道によれば此の處に來るなり。

【裏見張所】　前より右に神苑を辿り右前に逸べたる征清記念魂の附近に至れば其東北方に、大正天皇、

【御手植の松】　あり、陛下御齢十四歳にて、尚未だ皇太子殿下に在せし御頃御參拜遊ばされし御記念の松樹にて常緑の翠ぶ樹やや榮えに榮えつゝあるも目出たし、外宮御神域の參拜々觀は以上を以て粗ぼ終えたる譯なれど之れより電車により內宮に向はんには御神域外に出づべくまた途次の名蹟を探りて徒行ばんには一の鳥居橋詰より東に辿る、

【勾玉池】　は一の鳥居橋の東邊にあり其形狀勾玉に似たるを以て斯く名づく、池邊に櫻藏あり池中に白蓮あり、東南に繞りて奈良の風光一層佳なり。

【高倉山】　は、勾玉池の東邊より登るべく阪路一粁餘、山上の眺望甚だ佳なり、

【豐宮崎文庫】　池の東邊、高倉山登山路の東方にあり、慶安元年時の外宮の神官尊子藤條の爲め建設したる圖書館にして古書珍本を藏すること夥し、同文庫より北に出づれば即ち內宮道にして風本町、尾上町、倭町、古市町、中の町、櫻木町

【宇治橋】

【內宮御手洗】

【內宮廚】

（九）

【朝熊山】　海抜五五三米、內宮神苑より山頂まで八粁、登路百米毎に石標を建て途次の所々に茶店ありて登山者の便にす、頂上に近く名物の朝熊山萬金丹を驚げり、軈て絶頂に至れば、

【金剛證寺】　あり、堂宇は宗良親の頃曉臺和尚の開基にかゝり一時廢頽に傾きしを淨和天皇の天長元年、弘法大師之れを再興して眞言宗の一寺をせしが延長年間鎌倉建長寺第五世の東丘禪師更らに中興の祖となりて臨濟宗に改むと、本尊には天平年間聖武天皇の御寄進にかゝる聖德太子が天竺より傳來せしと云ふ慮藏菩薩を安置し霊時は輪奐の美を極めしも關來再度の火災にかゝり今は本堂のみ存せり。

【龍池】　之また朝熊山の頂山にありと雖も毎年陰曆六月一日の外は人の近づく能はざる處と云ひ傳ふ、其他明王院矢之進地藏等名高く、金剛證寺の

【裏の院】　たる呑海庵は最も絶勝の地なり古め常士見窯あり、

【下山路】　るものにして、山路の稍險なりと雖も鑑の朝熊村まで二粁餘にして至るべく朝熊村より、二見まで道程約四粁。

【二見浦】　は山田及び宇治より遠し山田を發したる參宮線は又此地に二見支線を設けたるを以て電車の二見停留場或は參宮線二見驛に下車して一路東に辿れば旅館土產物店等櫛比せる街衢を過ぎて風光明媚なる海濱に至る、東は海上廿八粁を隔て遙かに三河の伊良湖崎と相對し駿遠灘の諸山、さては富嶽の秀峰を給ひ掘立の御柱に雲形の御屋根を以てし長さ十米、闊さ五米、外面よりその御屋根の千木鰹木のみ遙かに拜する為得べし、因みに御宮殿の翠地は東西二箇所にありて、古來二十一年目に東或は西に御改築と定めさせられ現今の宮殿は西の聖地にありて去る昭和四年に遷宮せられたり、參拜後御池の畔に出づれば、

【神鶏】　の悠々餌を漁る樣の長閑にも床しく、池の東邊に沿ふて南に進れば通路十字を爲して左に風宮、右に土宮、直路に多賀宮鎭座あり、また外宮域の東邊より北方に通じたる路に向へば前に逸べ九丈殿の北方には、

【五丈殿】　其また北方に內御厩あり、更らに北して御宮城の背後に至れば朝夕の御饌を調へる所なり。

【忌火屋殿】　御酒殿、御贄木屋等右方に建てられ櫛て北の宮居を過ぎ裏見張所前を經て北すれば御域外に出づ、前に逸べたる裏參宮道によれば此の處に來るなり。

【裏見張所】　前より右に神苑を辿り右前に逸べたる征清記念魂の附近に至れば其東北方に、大正天皇、

【御手植の松】　あり、陛下御齢十四歳にて、尚未だ皇太子殿下に在せし御頃御參拜遊ばされし御記念の松樹にて常緑の翠ぶ樹やや榮えに榮えつゝあるも目出たし、外宮御神域の參拜々觀は以上を以て粗ぼ終えたる譯なれど之れより電車により內宮に向はんには御神域外に出づべくまた途次の名蹟を探りて徒行ばんには一の鳥居橋詰より東に辿る、

【勾玉池】　は一の鳥居橋の東邊にあり其形狀勾玉に似たるを以て斯く名づく、池邊に櫻藏あり池中に白蓮あり、東南に繞りて奈良の風光一層佳なり。

【高倉山】　は、勾玉池の東邊より登るべく阪路一粁餘、山上の眺望甚だ佳なり、

【豐宮崎文庫】　池の東邊、高倉山登山路の東方にあり、慶安元年時の外宮の神官尊子藤條の爲め建設したる圖書館にして古書珍本を藏すること夥し、同文庫より北に出づれば即ち內宮道にして風本町、尾上町、倭町、古市町、中の町、櫻木町

【宇治橋】

【內宮御手洗】

【內宮廚】

（十）

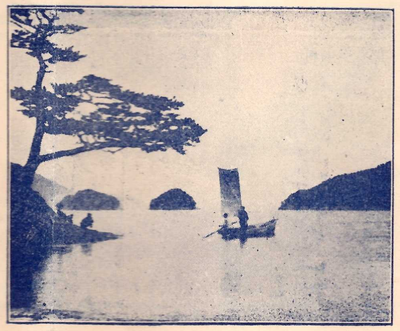
【鳥羽港】　は二見より七粁七分、參宮線通ぜり、地は、志摩國に屬し、舊時は稲垣氏の城下たりし處、伊勢灣口の良港にして海上に答志、菅、坂手、安乘、桃取等天等其他大小幾多の諸島を扣へ陸には日和山の勝あり山上より之れ等の諸島を指顧の間に眺め遠く伊良湖崎を望むの狀其勝云ふべからず、春時より夏時に亘りて船を貸し島巡りをするも可、釣を垂れて鮮魚を漁するに都人士の知らぬ面白味あり又遊船により海女の鮑取り見物も一興なるべし。

又鳥羽より賢島に向ふ廉電氣鐵道あり、終點賢島角は眞珠海として名高く、又風光明媚にして氣候温暖、參遊客の好適地として世に知られる。

參宮みやげと伊勢の名物

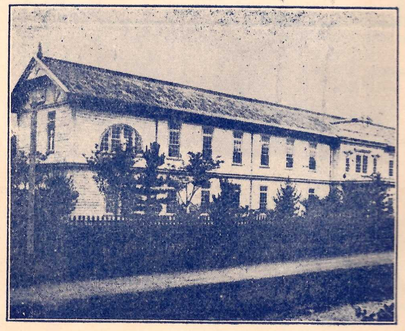
【天蓋岩】　あり、岩は大小の二基岸を去る二十八米の海上に立ち其大なるは高さ約十米、周圍四十三米、小なるは高さ四米、周圍十米、大正七年の海嘯の爲め小岩の一部を缺かれたり雖も眺望して舊觀をとゞめ、此の兩岩に注連縄を張れるは約一粁神の海上にあり聖天即神を拜する爲めなり、世俗二見の浦の初日出と稱するは拂曉の朝暾を此の兩岩の間を通じて拜す、其勝亦た云ふべからず。

【鳥羽港】



【鳥羽灣附近】

【鳥羽市街】



【鳥羽商船學校】

（十一）

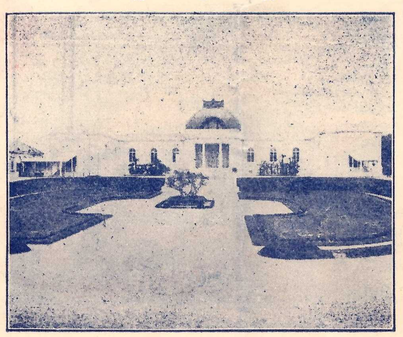
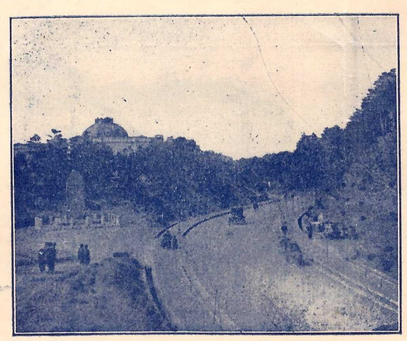
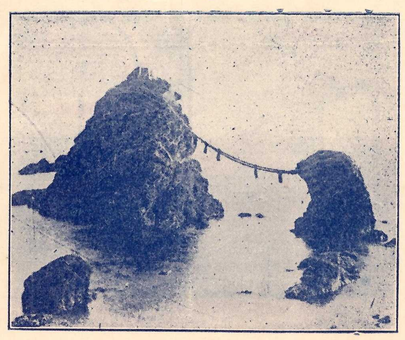
外宮內宮の御殿大麻及び產物に愛ふるは勿体なけれど伊勢參りの家土產には無くて海苔、鮑海鼠、宇治には赤福餅、生姜糖、蒲鉾、神路山の榊葉、榊、苔、玩具、二見には貝細工、榮螺の壺燒など特に名高く其他名所繪葉書と名所寫眞帳は伊勢に限らず而して之れ等の品々を需ぐ家は參宮道の各所にあり。

さやかなる月日のかげにあたりてもあま照神たのむだかりそ　定家

年中行事

歲旦大御饌	一月一日午前四時
元始祭	一月三日午前七時
私幣御饌	一月一日午前十時
大祓	一月十一日午後三時
新年祭大御饌	一月四日正午
紀元節大御饌	二月四日午前七時
新年祭奉幣	二月十七日午後一時
神武天皇遙拜	此日勅使參向、儀仗兵出張
天長節	四月二日午前八時
風日祈祭	四月二十九日午前六時
御饌	五月十四日午前十一時
月次祭夕大御饌	五月廿一日午後六時
月次祭朝大御饌	六月十五日午後七時
大祓	六月十六日午後十時
月次祭夕大御饌	六月十七日午前二時
月次祭朝大御饌	六月廿日午後六時
大祓	九月廿日午後五時
御饌	十月十四日午後五時
御衣祭	十月十五日午後七時
神御卜	十月十六日午後十時
神嘗祭夕大御饌	十月十七日午前二時
神嘗祭朝大御饌	十月十七日午後五時
神嘗祭奉幣	此日勅使參向、儀仗兵出張
大祓	十月廿一日午後四時
明治節	十一月三日午前七時
新嘗祭夕大御饌	十一月廿三日午前十一時
新嘗祭奉幣	十一月廿三日午後一時
大祓	十一月廿日午後三時
御饌	十二月十五日午後五時
月次祭夕大御饌	十二月十六日午後六時
月次祭朝大御饌	十二月十七日午後五時
月次祭奉幣	十二月廿五日午前六時
大正天皇遙拜	十二月廿一日午後三時
大祓	十二月廿一日午後三時

（十二）

年參り

毎年十二月の末日より翌一月一日にかけて參向する年參りと稱して古來の習慣なり、年參りは一度の參拜に二年分を償ぬるものなりといへど神恩の有難さ感に背きしものにあらざるなきか